

## 二 最古の問題か、最新の問題か

有るのか居るのか、能く解らないが、人は皆動いてゐる。動いてゐる人に「何をなさるのか」と云へば、「働いてゐるのです」と答へる。「何のために働くべきなさるか」と追求すれば、必ず「働かなければ食へない」と叫ぶ。成程勞働せざれば生活し能はざるなり。身の飢餓に迫るを如何にせん。御尤だ働かなければ食へない。「何故食はなければならぬか」。「食はなければ死んで仕舞ふ」。如何にも。よろしい。「それならば、食へば死なないか、食ひつゝ死ぬるものが、あるのは云何か」。元日のおめでたい雑煮餅を、咽にひツかけて死んだものがあると云ふ。問題は爰でまた行詰つた。

實際、人は絶えず食つて居れば、死ななくても宜しいやうな氣がするけれども、よく考へてみると、毎日々々活きたいために食つて居て、毎日々々死ぬる方へ近寄つて行く。「這へば立て立てば歩めと急ぐなり、我身につもる老を忘れて」。早く大きくなれと思ふ親の心は、同時に早く死ねくと急ぐやうにもとられる。そんなら、死ぬるために食つて居るかと思へば、左様ではない。活きたいために食つて居ながら、毎日々々死ぬる方へ近づく。随分變なものではありませんまいか。活きたいために働く、働いて活きるかと云へば死ぬる死ぬるために働くかと云へば、左様ではない。活きやうくと思ひつゝ死にかゝる。是は一體云何したら宜しいのだらう。人は之に氣付かぬのか、氣付いても驚かぬのか、驚いても抛つて置くのか。生の執着が餘りに強いため、この沈痛な人生問題に觸れてゐて、觸れないのか。茲一つ最古の問題にして最新の問題でなからうか。

今暫く、活きるか死ぬかは別問題として、既に私が此世に居る以上、呼吸をせねばならぬ、と同時に食はねばならぬ。着物を着ねばならぬ、家に住

まねばならぬ。この衣・食・住の三が、現在生活の重なるものらしい。この三に依つて、人の價値も自ら定まるらしい。運が好いとか悪いとかの標準も、これらしい。廣く天下を見渡せば、學者がある、無學者がある、金持がある、貧乏人がある、高位の人がある、無位の人がある。笑ふ人もあれば泣く人もある。拗る人もあれば怒る人もある。様々だが、結局はこの衣・食・住の三が根本らしい。